

沢の魅力と技術・装備について

2020. 7. 7 鈴木

はじめに

先日のナメラ沢は昨年も山行を行いました、昨年の台風により、倒木が多くてナメが土砂で埋まっているところが、藪沢になっていました。自然の力は人には及ばないエネルギーがあることを強く感じます。しかし、水の美味しさ、天から降る滝は水をキラキラを宝石に変えてくれます。天の川がくっきりと広がる星の輝きと焚火の炎などには心を奪われます。

40才から山に登り始めて23年になりますが、これまでの山行数は1000本ぐらいであり、そのうち沢は200本ぐらいです。場所は、越後奥利根、南会津、下田川内、飯豊・朝日、東北、北・南アルプス・八ヶ岳、谷川・上州・上信越、奥多摩・奥秩父、丹沢など。山行のメンバーは、はじめ釣りに単独で通っていましたが、元職場で一緒だったベテランの沢屋さんと出かけはじめ、一時期沢の山岳会にも所属したものの再び単独行、そして大宮労山のメンバー等と一緒にになりました。

なぜ沢に行くのか。それは「これまで知らなかった世界との出会い」でしょうか。少し振り返ってみたいと思います。

I. 沢の魅力とは、

<成瀬陽一氏>

徒渉 川などを渡る。高低差と圧倒的な水の存在が組み合わさった地形は危険も多く、「谷を読む」技術が命を左右する。また、その醍醐味はまぎれもなく美しい。谷筋を辿って行くのが沢登りの基本です。谷底を目指して下り、谷の全貌を解明しながら山頂を目指す。浸食、後退、隆起、堆積…谷は地球をつくり替える現場そのもの、刻一刻と姿を変える。創造物のエネルギーを前に、まだ見ぬ先へと気持ちが進みます。

自然の中を徒渉、水・光・色の輝き、大地からのメッセージ、命の息吹を感じる時、山の理解の深まり、沢の集水域、峰と谷、地形、山域、さらに広がるフィールド
動植物の生域、自然と人の営み、その土地の歴史や文化、環境の変化等
一つひとつが新鮮な出会いとなるでしょう。

II. どんな沢があるか。(写真を見ながら)

1. 山域を自由に歩く (大チョーナ沢 二口 米子沢—ブサノ裏沢)
魚、焚火、山菜、滑、ピーク
2. 谷を越えていく (北アルプス打込谷 丹波本流 上の廊下 鎌倉沢)
渡渉と仲間 造形美 ピークに立つ
3. 滝を登る (大滝沢 中津川、オツルミズ沢 四十八滝沢)
滝、滝、滝、高巻き、懸垂、シャワー、雪渓
4. 季節を楽しむ

新緑・紅葉、春の恵、涼を求めて、

○山城の状況を集める、

参考資料 登山体系 各山岳会年報、沢ガイド本、ネット配信ブログ等
現地調査（アプローチと下山など、事前に下見もあり）

○山行計画 <時期と場所>たとえば

5、6月新緑・山菜・岩魚（山の幸）と足慣らし

東北は山菜と岩魚が豊富、梅雨入りが遅い

7月登坂練習、梅雨明け1番は気持ちよい

雪渓が残るので、雪の多いところをさける 日が長い

8月大溪流・長期山行

9月雪が消えた深い沢ねらい

登坂的な沢が出てくる。日照時間が短くなるので注意

10月紅葉と焚き火

水にあまり浸からないで行きたい

Ⅲ.山行にあった道具と準備

1. 山行に合わせた道具

- ・ウェアリング
- ・装備は計画書の項目を基本に山行に対応、(資料1)
- ・メンバーでの分担

2. 山行に必要なメンバーの技術とパートナーの信頼

○山城の把握とルートファインディング

- ・25000図を広げて、山行ルートを確認。集水域、尾根や等高線から地形の把握

○遡行技術；徒渉、登坂、へつり、泳ぎ、高巻き・藪漕ぎ、雪渓処理、ザイルワーク等

○メンバーの健康、山行計画の共通理解、行動中の疑問を伝え合う

- ・山行にあった食糧計画と出発から帰宅までの山行日程
- ・打ち合わせと家庭への配慮
- ・山行の目的や計画の検討し共通理解を図る。
- ・それぞれの役割を自覚する。

○パーティーの人数

○緊急対応

○自然を汚さない。ゴミは持ち帰る。

Ⅳ. 実際の山行では（失敗経験） 靴忘れなど多数

○利根源流下降点間違え、座ってビバーク

○万太郎沢尾根で雷

○大滝沢のハチ、魚野川での熊

○下津川山の山頂停滞

- 白毛門下山遅れ連絡ミス、東御築江沢停滞
- 立場川事故
- 畑沢救助経験

V. 山行の反省と記録

○山行から得た経験から次の山行への期待につながります。これまでの山行はほとんど記録を書いてきました。毎回、虫に刺されたところに何回もキンカンをぬりながら反省することばかりです。しかし、その中で次回の期待が広がります。会山行であれば、お互いを書いて、冷静に見つめながら、どんなことを感じたのか、山行の良さ、まずさを分析していくことが充実した山行を作っていくことになると思います。

○黒川恵氏（日本山岳ガイド協会）より
大切な力について「体力、技術、知識、言葉」

そして、冷静な判断力と行動力だと思います。
自然を肌で感じ、仲間を信頼し合い、ともに楽しんでください。

<今後の予定>日程や内容の変更もあります。

- 6月 27-28 日前泊 三面川；末沢川
- 7月 11 日前泊 蔵王 名乗川；小屋ノ沢
23-24 日前泊 飯豊二王子岳 内ノ倉川；七滝沢
- 8月 1-4 日前泊予備日 2日 北アルプス 上の廊下
20-23 日前泊予備日 1日 胎内川；頼母木川足ノ松沢
- 9月 4-6 日前泊 焼石岳；尿前沢
19-21 日 中津川；高沢大高沢一魚野川本流
- 10月 10-11 日 宝川；ナルミズ沢

資料 1

17	中No													
18	共同装備		担当	共同装備		担当	個人装備 沢							
20	ベーステント()			救急薬品			シュラフ	—	テルモス	△	渓流シューズ	○		
21	行動用テント()			しゃもじ・お玉			シュラフカバー	—	プラテバス	△	スパッツ	○		
22	ロープ()			ラジオ			マット	—	ヘッドランプ	○	沢手袋	○		
23	ツェルト()			GPS			鉄マット	—	タオル	○	ヘルメット	○		
24	ガス()			ターフ					笛	○	ハーネス	○		
25	コップホル()			のこぎり					ナイフ	○	下降器	○		
26	ランタン								地図・コマパス	○	スリング	○		
27	敷き板			—			ヒトコロ	△	行動食	○	カラビナ	○		
28	コンロ			—			ベース用		ロールペーパー	○	ハーゲン	△		
29	エロ携帯セット			—			シュラフ	—	防寒具	○	ハンマー	○		
30		日時	AU	担当	日時	AU	担当	備考	シュラフカバー	—	救急薬品	○	登山袋・靴下	△
31	共同								マット	—	GPS	△	登山着	○
32									鉄マット	—	ツェルト	△	雨具	○
33									お風呂セット	○	食器・箸	—	登山靴	—
34	連絡事項・事故対策:													